

赤十字いわて

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.



平成29年 第1ブロック合同災害救護訓練に参加

日本赤十字社では大規模災害時に備え、全国を6つのブロックに分け迅速かつ的確な救護活動を行えるように、訓練を実施しています。

北海道と東北6県で構成される第1ブロックでは、平成29年9月13日から14日の2日間にかけ、山形県にて合同災害救護訓練が開催されました。

1日目

訓練の1日目には広域災害救急医療情報システム(EMIS)の入力実習等の学習訓練が行われました。災害時の情報伝達が困難な状況下でも、EMISは救護所や避難所の情報を全国の各救護班や医療部隊と共有することが可能なシステムです。訓練実習では、実際の災害時を想定しつつ救護班員はEMISを入力し、疑問点などを確認していました。今回の訓練会場である地上24階建ての高層ビル（霞城セントラル）においても負傷者が多数避難しているという想定で救護訓練が開始されました。パトカーの誘導で訓練会場に到着した救護班は警察や消防と連携を取りながら、傷病者の救護・搬送を行いました。余震等も続く中、次々と傷病者が運ばれてくる状況を再現した訓練には緊迫した空気が流れ、実際の災害時にも想定されうる様々な課題が見つかり、非常に有意義な実働訓練となりました。

また、避難所における巡回診療の実習も行われました。救護班員が班ごとに救護班と避難者役に分かれ、ケガで動くことのできない方や会話が困難な方、乳児を抱えた方等、様々な避難者の状態を想定しての診療を行いました。実習において救護班は外傷的な部分の診療のみではなく、ここでのケア部分にも注意を置きながら、避難者の声に慎重に耳を傾けつつ、避難者の状態に気を配っていました。



一つ一つ確認しつつEMISを入力



協力しながら搬送



避難者に寄り添いながらの巡回診療



運ばれてきた傷病者へ迅速に対応



赤十字奉仕団トピックス

赤十字奉仕団ふれあい交流会を開催



花巻4奉仕団による踊りのパフォーマンス

岩手県内の奉仕団が被災地にお住まいの方々を歌や踊り、食事などでおもてなしをし、交流の機会を提供するふれあい交流会が沿岸各地で開催されました。赤十字奉仕団は地域の方々に楽しんでいただけるよう、各奉仕団の特色をいかしたパフォーマンスやおもてなしを精一杯行いました。参加した方々は、炊き出しのおふるまいに「おいしいね～」等と笑顔で感想を言いあったり、ゲームや踊りと一緒にし、交流を深めました。

2日目

訓練2日目では実働訓練が行われました。訓練は山形県を震源とした地震により、山形県内で建物の倒壊や主要道路・水・ガス等のライフラインへの甚大な被害、多数の死傷者が出了ことを想定し行われました。今回の訓練会場である地上24階建ての高層ビル（霞城セントラル）においても負傷者が多数避難しているという想定で救護訓練が開始されました。パトカーの誘導で訓練会場に到着した救護班は警察や消防と連携を取りながら、傷病者の救護・搬送を行いました。余震等も続く中、次々と傷病者が運ばれてくる状況を再現した訓練には緊迫した空気が流れ、実際の災害時にも想定されうる様々な課題が見つかり、非常に有意義な実働訓練となりました。

また、避難所における巡回診療の実習も行われました。救護班員が班ごとに救護班と避難者役に分かれ、ケガで動くことのできない方や会話が困難な方、乳児を抱えた方等、様々な避難者の状態を想定しての診療を行いました。実習において救護班は外傷的な部分の診療のみではなく、ここでのケア部分にも注意を置きながら、避難者の声に慎重に耳を傾けつつ、避難者の状態に気を配っていました。

なお、この第1ブロック合同災害救護訓練は、来年度岩手での開催が決定しております。

NHK 海外たすけあいキャンペーン

2017

「NHK海外たすけあい」 募金へのご協力をお願いします

キャンペーン期間

平成29年12月1日(金)から12月25日(月)まで

受付場所

- 取扱い標示のある金融機関
- JA（農協）
- JF（漁協）
- NHK盛岡放送局
- 市町村日赤担当窓口
- 日本赤十字社岩手県支部および赤十字関連施設

受付方法

上記受付場所で、現金で受付しています。金融機関からお振込みいただく場合は、上記受付窓口に「振込用紙（振込手数料無料）」が設置されていますので、ご確認のうえご利用ください。ご不明な点がございましたら、お手続き前に日赤岩手県支部までご連絡ください。

[キャンペーンの詳細は特設WEBサイトへ](#) [日赤 海外たすけあい](#) [検索](#)

「海外たすけあい」とは

いま世界では1億3,000万人もの人々が、紛争や自然災害、飢餓、病気などで、命の危機に直面しています。「NHK海外たすけあい」は、こうした人々を救うため、日本赤十字社が毎年NHKと共に実施しているキャンペーンです。これまでに、世界155カ国に支援をしてきました。

赤十字の支援の特徴

あなたの支援を確実に届けます

「苦しんでいる人を救いたい」という共通理念を持つ、世界190の国と地域にある赤十字社の姉妹社と協力して、支援が直接届けられます。

地域に根ざした継続的な支援をします

地域に根ざして活動しているからこそ、いち早く必要な支援を届けることができ、かつ継続して支援することができます。

あらゆる地域に支援を届けます

各国に赤十字社があり、中立の立場で活動しているからこそ、国際社会の支援が届きにくい地域にも支援を届けることができます。

義援金・救援金

～義・救援金にご協力をお願いします～

日本赤十字社にお寄せいただいた「義援金」は、被災県に設置される義援金配分委員会に全額送金され、同委員会で定める配分基準に従って被災者へ届けられます。

また、世界各国の赤十字社・赤新月社を通じて被災国の赤十字社に寄せられる「海外救援金」は、被災国の赤十字社が行う被災者支援活動に役立てられます。

★現在みなさまにご協力をお願いしている義援金・海外救援金

義援金

義援金名	受付期間
平成29年7月5日からの大雨災害義援金	平成29年12月28日(木)
平成29年台風第18号災害義援金	
平成29年台風第21号義援金	平成30年1月31日(水)
東日本大震災義援金	
平成28年熊本地震災害義援金	平成30年3月31日(土)

救援金

救援金名	受付期間
パングラデシュ南部避難民救援金	平成30年3月31日(土)





岩手県支部 TOPICS

リーダーシップ・トレーニング・センターを開催 ▶7月31日㈪～8月2日㈬ 国立岩手山青少年交流の家

JRC加盟校の小中高校生を対象に毎年開催されるリーダーシップ・トレーニング・センター。今年は、小中高校生計84名が参加しました。子どもたちは3日間の集団生活の場で、「気づき・考え・実行する」力を養い自主性・自律の生活について学びを深めました。

はじめは緊張した面持ちで口数も少なかった子どもたち。しかしながら、アイスブレーキングのゲームや、班員と協力することではじめて達成することができるフィールドワークなどをを行ううちに、楽しそうな声や積極的に自分の意見を述べる声がたくさん聞こえてきました。

救急法の三角巾を使った応急救手当を学ぶ際には救急法指導員に尋ねるだけではなく、「ここはどうやるのか教えてくれない?」「もう一回やってみよう!」等と自分たちで協力し、アドバイスしながら何度も何度も繰り返し練習する姿が印象的でした。

3日間の非日常的な体験を経て、子どもたちは自信にあふれた表情を見せるようになり、今後の学校生活でもみんなをひっぱるリーダーとして活躍してくれる姿が目に浮かぶようでした。



防災を学びながら協力してゴールを目指す「いままでごろく」に挑戦!

【東日本大震災復興支援事業】盛岡赤十字病院職場体験

▶8月8日㈫ 盛岡赤十字病院

今年で5回目となった職場体験。宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市などの沿岸被災地から、将来、医療従事者を志す中高生91名が体験に参加しました。

生徒たちは、医師・看護師・臨床工学技士・理学療法士・薬剤師・放射線技師・臨床検査技師の7部門から希望する仕事を選び、電子メスを握って鶏肉を切ったりと本番さながらの手術体験や、調剤、新生児とのふれあい等の体験を行いました。

「実際に心臓や肺の音を聞いたり、執刀体験をしたりというの初めてで新鮮だった」という声や、「自分が知らないことを知れたり、イメージが変わった」、「自分の進路決定に役立つ」という声が聞かれ、漠然と職業に抱いていた「なりたい」という気持ちが、体験を通して具体的になり、将来について強く意識できたようでした。

職場体験を経て、将来は医療従事者になりたいという思いをさらに固くした生徒も多く、これからの医療を支えてくれる存在として、とても頼もしく感じられました。



新しい命の温もりに自然と笑顔が

「みんなのソナエ+防災」に参加

▼10月22日㈰ イオンモール盛岡南

国内最大級の防災イベント「みんなの防災+ソナエ」が、全国11地区14会場で開催されました。岩手県ではイオンモール盛岡南で開催され、日赤岩手県支部は心肺蘇生・AEDの使い方の体験ブースを開きました。

体験ブースにはご家族で訪れる方が多く、大人だけではなく子どもたちも「はじめてやる~!」「えー!おせないよ~」と初めての体験に照れたり、少々苦戦しながらも、楽しみながら体験をしていました。一方で、「もし、家族が倒れたら?」「もし、友達が倒れていたら?」というう“もしも”を意識すると、子どもたちも真剣な表情で体験に取り組んでいました。

今回、初めて心肺蘇生やAEDの使い方について知ったという方が多く、「なかなか機会がなかったから、丁度いい機会となった」という方や「子どもに対する心肺蘇生やAEDの使い方が大人と違うのは知らなかった。知ることができてよかった」という小さなお子様連れの方もいらっしゃいました。

普段から“もしも”的事態が起こるかもしれない心掛けることは、一人でも多くの命を守るためにとても大切なことです。今回の体験は不測の事態に備えるという意識を多くの方たちに持っていただける、良い機会となったのではないかと思います。



ムックと一緒に救急法に挑戦!



その他活動の様子は、隨時「日赤岩手県支部ホームページ」に掲載しています。ぜひご覧ください!

日赤岩手県支部

検索

盛岡赤十字病院

完全院外処方のお知らせ

盛岡赤十字病院では、国の医薬分業の方針に基づき平成29年11月1日から外来でお渡しする薬は全て院外処方といたしました。また、休日、夜間におましても午前8時30分から午後9時までの間に発行する処方は院外処方となりますので、ご理解とご協力を願います。

院外処方のメリットは、かかりつけ薬局をお持ちいただくことで、複数の医療機関から出された薬を把握でき、薬の重複や副作用のトラブルを防ぐことが可能となります。また、薬の効能や副作用、市販薬のことなども相談できますので、自宅や勤務先の近くなど、ご自身の都合に合わせてかかりつけ薬局をお選び下さい。



特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘

鶯鳴荘が新しくなります ユニットケアに向けて研修始動!!

日赤鶯鳴荘は平成30年度新しくなり多床室から全室個室（ユニット）に変わります。

そこで全職員ユニットについて只今勉強中です。ユニット立ち上げチームが主体となり、ユニットの考え方、生活と環境、具体的方法、24時間シートについて、外部講師やユニットリーダー研修終了者が講師を務め、ユニットとは？これまでのケアとの違いは？座学研修から行いました。講師から「あなた自身が、又、家族が、入居するならどんな施設に入居したいか、入居させたいか」ということについて質問が投げかけられ、同時に自分たちがそのような施設を作り上げていかなければならない。「利用者」という言い方も「入居者」と変わること。実地研修においては、他のユニット型の施設に職員の受け入れをお願いして、介護職員だけでなく全職員が、入居者様、職員の思いを「体感」出来るよう実施しています。入居者様の望む生活を提供できるよう専門職としての知識や技術はもちろんのこと、高齢者の思いを感じ取れるような感性豊かな職員を育成し、又地域の方々へ情報提供し地域に根ざした施設づくりに取り組んでおります。

移転新築にともない介護職員を募集中ですので、詳細については総務係までお問い合わせください。



研修風景



新しい鶯鳴荘（イメージ）

岩手県赤十字血液センター

“けんけつ”セミナー開講中!

血液センターでは、主に若年層の方を対象に、献血の意義や血液製剤についての理解を促進する取り組みとして、「献血セミナー」を実施しています。「血液はどのような仕事をしているの?」「献血した血液はどのように使われているの?」など、血液のしくみや献血に関することをスライドや動画でご説明いたします。これまでに各学校や各団体等での実績がございます。

学校における保健の授業の一環や、社内でのボランティア意識の向上として、「献血セミナー」を実施してみませんか？



岩谷堂高校さんの献血セミナーのようす

献血セミナー内容（全40分）

- ①スライドでの説明（15分）
 - ・血液のしくみ
 - ・献血の現状
 - ・献血された血液のゆくえ
- ②献血に関する動画の上映（10分）
- ③献血クイズ（10分）
- ④質疑応答（5分）

「献血セミナー」に関するお問い合わせは…
岩手県赤十字血液センター 献血推進課
電話 019-637-7201（平日8:30～17:00）

この内容は一例です。
ご要望に応じて編成させていただきます。

日赤岩手乳児院

命を守るために

日赤岩手乳児院では、毎月、避難訓練を行っています。

地震・火事・水害を想定し、日勤・夜勤それぞれの時間帯で実施しています。また、年に数回、警察署や消防署に計画書を提出し、不審者対応訓練や消防訓練も行っています。

過去の大災害を教訓に、いざという時に子ども達や職員自身の命を守るために…と職員皆、緊張感を持って臨んでいます。

